

第3章

北九州市こども計画

1 基本理念

「こどもまんなかcity」の実現

北九州市におけるこどもの出生は、合計特殊出生率が政令市でトップクラスである一方、出生数は昭和42年のピーク時の3割弱まで減少しています。こどものいる世帯割合も2割を切っており、こどもや子育て世帯は社会の少数派となっています。

しかし、こどもは社会において未来を拓く大切な存在です。その命を守り、持って生まれた能力を十分に伸ばし、成長できるよう支えていく必要があります。

このことを今一度、社会全体で共有し、こども・若者、子育て当事者がウェルビーイング（幸せな状態）で生活を送ることについて、社会全体で関心を持ち、一人ひとりが行動を起こすことが大切です。

こども・若者が、周囲から愛され尊重される環境で育まれ、自らの意欲や能力を活かすことができることは、成長したときに、大人として再びこどもたちに愛情を注ぎ、育む、という循環を生み出します。そして、この好循環は、私たちの社会を未来へと紡いでいきます。

そのために、北九州市は「こどもまんなかcity」を目指します。

「こどもまんなかcity」とは

○ こどもの目線に合わせて、こどもの最善を考えるまち

こども・若者が心身の発達の過程にあることを踏まえつつ、大人の側からこども・若者の目線に合わせ、その意見に耳を傾け、こどもの最善を考えて支援するまち

○ こどもを、社会を構成する存在として尊重することができるまち

こども・若者を、同じ社会を構成する一員として捉えて尊重し、対話をしながら、将来の社会を担うこども・若者とともに、様々な社会課題を解決していこうとするまち

2 6つの視点

「こどもまんなかcity」の実現に、次の6つの視点に立って取り組みます。

1 こどもの目線や意見を反映する

こどもが、生活の場や物事の決定の過程において、安心して意見を言うことができ、年齢や発達の程度に応じつつその意見が反映されることにより、周囲や社会が変わっていく体験を重ねながら、夢や希望を持って将来を切り拓く力を付けていくという視点

2 こどもの育ちの中、どんな時期・場面でも支える

妊娠・出産から、乳幼児期、学童期、思春期、そして青年期と成長する間、切れ目なく、きめ細かく支援するとともに、悩みや困難を抱える状況になった時にも支援する手立てがあるという視点

3 多様な状況にあるこどもを受け入れ、応援する

障害や発達に特性のあるこどもを地域で受け入れる環境づくりや、外国籍のこどもへの対応や配慮、保護者による養育が困難なこどもへの適切な養育環境の提供など、それぞれの状況に応じてこどもを支援するという視点

4 子育てをしている人が幸せを感じ、満足感を得る

子育て当事者が、必要とする支援を受けることができ、周囲から温かく支えられることによって、子育てを楽しみと感じ、ウェルビーイングで満足感を得られる生活を送ることができるという視点

5 男性の子育てへの参画と、職場からのサポートを促す

家庭での家事や育児負担が女性に偏っている現状を変え、男性の家事や子育てへの主体的な参画を促し、パートナーと相互に協力して子育てするとともに、全ての子育て当事者が、職場からも理解と十分なサポートを受けられるという視点

6 多世代でこどもまんなかの考え方を共有し実践する

こどもや子育て当事者だけでなく、普段は子育てに関わっていない人や高齢者も含めた多世代で「こどもまんなか」の考え方を共有し、こどもの成長とともに後押しするという視点

3 基本方針・基本施策

北九州市こどもプランの施策は、3つの基本方針と、基本方針を達成するための15の基本施策で構成します。

基本方針Ⅰ こどもをまんやかに、子育てをもっと楽しく	
基本施策1	こどもの主体性を育み、子育てを社会全体で応援する環境づくり
基本施策2	魅力的で良質な「こどもまんか city」の構築
基本施策3	デジタルによる迅速で快適・便利な子育て支援の充実
基本方針Ⅱ どんなときも、こどもの歩みに寄り添う	
基本施策4	切れ目のない母子保健・医療体制の確保
基本施策5	幼児期までの成長を保障する幼児教育・保育の充実
基本施策6	自己肯定感やアイデンティティの形成に向けた成育環境づくり
基本施策7	若者の自立や結婚希望者に対する支援
基本施策8	社会的養護が必要なこどもや家庭に対する取組の推進
基本施策9	障害児・医療的ケア児等への支援やインクルージョンの推進
基本施策10	成長に応じたヘルスケアや健全育成に向けた支援
基本施策11	子育てを支援するシニアや地域人材の育成
基本方針Ⅲ 子育て世代と若者をしっかり応援	
基本施策12	子育て世代の経済的負担の軽減
基本施策13	共働き・共育てができる社会づくり
基本施策14	DEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の推進
基本施策15	若者のチャレンジ支援や人材育成

基本方針
I

(彩りあるまちの実現)

こどもをまんやかに、子育てをもっと楽しく

こどもは、子育て当事者や社会の支えを受けながら、自立した個人として、意見を表明し、自ら選択し決定することなどを通して、自己を確立していく主体です。

こどもの最善の利益を実現する観点から、年齢や発達段階、様々な経験の場に応じて、こどもの意見を尊重し、社会へ参画する上で欠かせない意見形成への支援を進め、こどもが意見を表明しやすい環境づくりを行います。

また、市民や地域、企業に対して、こどもや子育てへの理解と協力を促し、社会全体でこどもをまんやかに据えた子育てに優しい社会づくりを進めます。

さらに、子育てに関する情報取得の快適さや、デジタル技術を活用した子育てに関連する手続きの利便性の向上等を図ります。

これらを通じて、「こどもまんやかcity」の実現や子育て当事者が「子育てしやすい」、「子育てが楽しい」と感じられるまちを目指します。



基本施策1

こどもの主体性を育み、子育てを社会全体で応援する環境づくり

(1) こどもの意見表明の支援と社会参画する機会の提供

こどもは、自立した個人として、心身の状況や置かれている環境等にかかわらず、権利が擁護される存在です。

年齢や発達に応じて、自己に関係することに意見を表明し、決定することや、多様な社会的活動に参加する機会をつくることで、将来、主体的に社会形成に参画する人材を育成します。

また、こども・若者が意見を表明しやすい環境づくりに取り組みます。

北九州市では、令和6年に「みらい政策委員会」を設置し、市内の小中学生や高校生から市に対して政策提言を行う取組を始めました。市は提言の内容について検討するとともに、結果についてこどもたちにフィードバックします。

関連する主な取組【基本施策1-(1)】

- こどもの権利やこどもの意見表明に関する周知啓発
- 「かなえるポスト」によるこどもの意見募集
- ＜再掲＞こどもの権利擁護環境の整備（児童養護施設やファミリーホーム等）
- 「みらい政策委員会」による政策提言

(2) こどもと子育て当事者を社会全体で応援する「こどもまんなか」意識の醸成

現在の少子化の背景には、家事・育児の負担が依然として女性に偏っている状況や子育ての孤立感や負担感など、様々な要因が複雑に絡み合っていることが指摘されています。こどもや子育てを当事者だけの問題と捉えるのではなく、社会全体で関心を持ち、関わっていくことが重要です。

こどもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現する「こどもまんなか」の考えの下、地域や企業など様々な立場から、これから生まれてくるこどもや、今を生きるこども・若者、そして、子育て当事者を応援する市民意識の醸成を図ります。

とりわけ、令和6年11月に策定した「こどもまんなかcityの合言葉『北九州市こどもまんなかスイッチ！』」の普及に努め、市民の具体的な行動を促します。

また、「こどもまんなか」の趣旨に共感・賛同する民間企業や団体、施設の輪を広げ、こどもと一緒に利用しやすい店舗や施設などを増やすほか、こどもの誕生や成長を喜び合える取組を進めます。

関連する主な取組【基本施策1-(2)】

- 「北九州市こどもまんなかスイッチ！」の周知啓発
- こどもまんなか応援サポーター宣言事業者の拡大
- きたきゅうマタニティギフトの提供
- 北九州市二十歳の記念式典の開催



「北九州市こどもまんなかスイッチ！」の策定



こどもまんなか city の合言葉

北九州市こどもまんなかスイッチ！

自分がこどもだった頃、大人ってどんなふうに見えていただろう。
いろいろなことを教えてくれる大人がいた。
いつも声をかけてくれる大人もいた。ときには、叱られたこともあった。

今、大人になって、こどもたちにできることはなんだろう。
大きなことはできないけれど、やさしく見守ることならできるかも。
こどもの頃に、近くで寄り添ってくれた大人のように。

まずはこどもの周りに、にこにこ笑顔があふれていることが、
だれもが始められるスタートライン。

このアクションが、合言葉となって広がり、
こどもが地域の「まんなか」になるように。
こどもも大人も、笑顔が絶えない北九州市になるように。

みなさんも、こどもまんなかスイッチを入れてみませんか？

<アクション>

- 1 こどもがいたら、みんなで「**にこにこスイッチ**」オン！
- 2 こどもとは、ひざをかがめて「**同じ目線**」で
- 3 こどもに教え諭（さと）すときには「**愛情いちばん**」
- 4 子育ては時に大変なことも。やさしく伝える「**大丈夫**」
- 5 こどもの周りには、いつもたくさんの「**ありがとう**」を

基本施策2

魅力的で良質な「こどもまんなか city」の構築

(1) 若者や子育て世代から選ばれるまちとしての環境づくり

令和6年3月に策定した「北九州市基本構想・基本計画」では、「彩りあるまち」の実現を掲げ、若者や子育て世代に選ばれるまちとなることを目指しています。

そのためには、市内外の若者や子育て世代にとって、子育てしやすい環境や生活の基盤となる働く場、魅力的で心豊かに生活できる住環境等を整えることが重要です。

地域や民間事業者とも連携し、こどもが遊びやすい公園や、気軽に集える「こどもまんなかスペース」の展開、現在市内に約500か所ある「赤ちゃんの駅」(授乳・おむつ替えスペース)の充実など、こども・若者が過ごしやすく、親子に優しい環境づくりを更に進めていきます。

また、若者の市内企業への就職・転職に向けた支援や、北九州市への定住・移住の支援策等により、雇用と住まいの安定を図るとともに、こどもや子育て世代の目線に立った、安心・快適に移動できる道路整備や、こどもの見守り支援を始めとした防犯対策など、こどもの安全・安心に配慮した環境づくりにも取り組みます。

■図表1 年代別・日本人男女計 社会動態の推移(北九州市)



【出典】北九州市

関連する主な取組【基本施策2-(1)】

- 乳幼児と安心して外出できる環境づくり(赤ちゃんの駅)
- こどもまちなかスペースの展開
- わいわい市民センターの実施
- こどもまんなか公園づくりの推進
- U・I ターン希望者への就職支援
- 若者ワークプラザ北九州による就職支援
- 定住・移住推進のための住宅支援
- 移住促進のための支援金の交付
- こどもまんなかみちづくり(歩道等の安全性や快適性の向上)
- 通学路の安全確保
- 地域の防犯対策の推進

(2) 市内外に向けた良質な子育て環境の整ったまちの魅力の発信

北九州市の子育て環境については、これまでも、民間機関やNPO等の調査による全国の自治体や政令指定都市との比較において、「共働き子育てしやすい街」や「子育て環境ランキング」などで高い評価を得ています。

例えば、充実した小児医療・小児救急体制、全学年・全児童が利用できる放課後児童クラブ、こども連れで1日楽しめるインドアパーク「子どもの館」「子育てふれあい交流プラザ」等の子育て支援施設、所得制限のない子ども医療費の助成など、多方面にわたる子育て支援体制や施策の実施が評価につながっています。また、令和5年12月からは第2子以降の保育料無償化も開始しました。

今後も市民ニーズに寄り添いながら、引き続き、子育て環境の整備に取り組むとともに、このような北九州市の良質な子育て環境について、積極的に市内外に発信し、「こどもまんなか city」としての北九州市の魅力を発信します。

関連する主な取組【基本施策2-(2)】

- 子育てマップ北九州(ホームページ)の情報発信や利便性の向上
- 冊子等による出産・子育て支援情報の発信
- 北九州ライフ(移住応援公式情報サイト)による魅力発信



北九州市の共働き子育てに関する全国的な評価

日経 クロスウーマン Xwoman・日本経済新聞社「共働き子育てしやすい街ランキング」
 2023年 ▶ 全国8位 (うち政令市 2位 うち九州の自治体1位)
 2024年 ▶ 全国7位 (うち政令市 2位 うち九州の自治体1位)

基本施策3

デジタルによる迅速で快適・便利な子育て支援の充実

(1) 子育て情報のデジタル化やDXの推進による利便性向上

コロナ禍を契機とした社会のDXが加速しており、市政情報の発信や情報の取得、市民サービスのデジタル化の推進は重要な課題です。

子育て当事者がデジタルネイティブ世代となる中、使い手側の目線に立った子育て情報の発信を充実させるとともに、妊娠届出や妊婦健診、乳幼児健診などの母子保健に関する手続きや、保育所入所手続き等の利便性の向上を図ります。また、データの即時性や事務のデジタル化を進め、子育て関係者や行政の業務の効率化にも取り組みます。

関連する主な取組【基本施策3－(1)】

- 〈再掲〉子育てマップ北九州(ホームページ)の情報発信や利便性の向上
- 妊産婦健診等のDX推進
- ICTを活用した妊娠・出産・子育て期にかかる手続きの効率化
- こども施設のDX推進

